Osaka University Knowledge Archive

Title	センター長退任にあたって
Author(s)	山田, 朝治
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1990, 77, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/65875
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

センター長退任にあたって

山田朝治

本年3月末日で停年退官するとともに、3年間つとめたセンター長も退任しました。この間、本センターの教職員ならびに、学内外の多数の関係各位にずい分お世話になり本当に有難うございました。厚く御礼申し上げます。

退任の挨拶にあたって普通なら大過なく務めさせて頂いたと述べるところでしょうが、片づけなければならない仕事を残したまま大阪大学を去ることになり、誠に申し訳なく何とも心残りがしてなかなか退任の御挨拶の筆がすすみません。本センターは発足してから20年余、この間いろいろ困難な問題もあったとは思いますが、最近まで一応順調に発展してきたといえるでしょう。私がセンター長に就任した昭和62年度は、大型汎用機やスーパーコンピュータのレベルアップなどセンターの諸機能が一段と充実してきました。科学技術計算のみならずデータベースの活用や学術情報センターのネットワークの構築等が着々とすすみ、多様化してきたユーザーの要望に応えるべく、センターの仕事も益々多忙になり、また、大阪大学の学内LANすなわちODINSの概算要求案もようやく具体化し、センターが窓口となって文部省の学術情報課と交渉を開始した年度でもありました。私がもし、昭和62年度末で退官していましたらそれこそ“大過なく”という挨拶文を書いたと思います。

然るに昭和63年度、平成元年度の2年間は努力がすべて空まわりに終ったという感じであり、ただあれこれ考えるだけで何も出来ず、心配しているだけがセンター長の仕事になってしまいました。ODINSは予算不足で平成2年度予算では見送りとなり、スーパーコンピュータは世界最高級の性能を誇る国産機が発表されているにも拘わらず、御承知の通り日米経済摩擦の問題のため導入することが困難な状況になっています。永年にわたり大型計算機センターは、常にその時代の最高級のコンピューターを大学の研究者に提供するべく努力を続けてきました。文部省の御協力と国産メーカーの御好意によりある程度その目的を達成してきましたが、これからはアカデミックディスカウントが認められない限り、常に最高性能の機能をもった設備を用意することが難しくなるものと思われます。敗軍の将何とやらで、これ以上愚痴をこぼすのはやめますが、憂慮すべき状況にあることは間違いありません。

しかし、冬来りなば春遠からじでセンターのハード面はともかく、ソフトウェアを充実させる好機でもありましょう。幸いにも新進気鋭の教授以下研究開発部には有能な教官が揃っており、また事務部門も新しくネットワーク掛が誕生するなどユーザーに対するサービス向上も大いに期待されます。さらに次期新センター長はセンター発展のために、元工学部長としての手腕を大いに発揮されることと思いますが、関係各位の御支援を私からもお願い申し上げて退任の挨拶とさせて頂きます。